



大きく実った夏野菜

中央・下蕨・旭町公民館の農業体験講座「ぷちトマトくらぶ」でのひとこま。りっぱな夏野菜を手に笑顔も豊作でした。

蕨市平和都市宣言

昭和20年8月、広島、長崎に人類初の原子爆弾が投下され、早くも40年の歳月が流れました。

その間、唯一の被爆国である我が国は、恒久平和を崇高な理念として憲法に掲げ、自由と正義を愛し、世界平和に寄与してきました。

しかるに今、世界の超大国を中心とした核保有国が競って核軍備拡充を図っていることは、まことに脅威であり、この核軍拡競争に対して、世界のいたるところで、平和希求の叫びがとみに高まりつつあります。

このような国際情勢の中で、戦争は人間が起こすものであり、また人間の力によってこれを防ぐことができることをしっかりと心に刻み、平和で豊かな社会を次の世代に引き継いでいくことが、現代に生きる我々の責務であると考えます。

私たち蕨市民は、平和憲法の精神を守る立場から、非核三原則が厳守されることを強く希望し、世界のあらゆる国の核兵器の速やかな廃絶を願うものであります。

蕨市は、市民の平和を願う心を結集し、ここに「平和都市」であることを宣言いたします。

昭和60年9月9日 蕨市

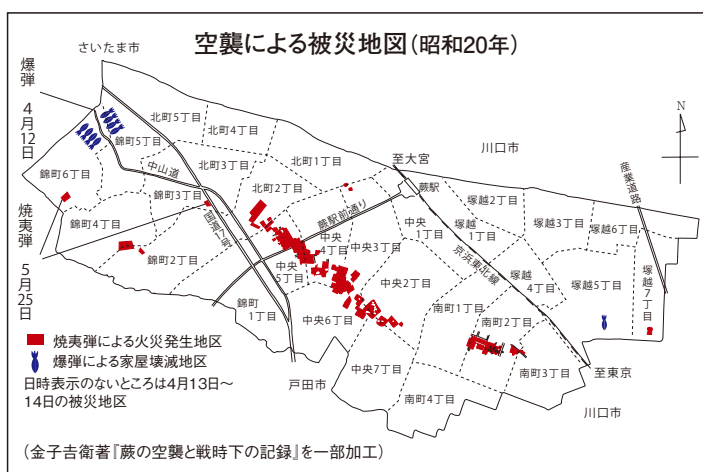


平和の母子像(市民公園)

語り継ぐ戦争の記憶

未来へ届ける平和の願い

終戦から81年が経ち、戦争を知る世代は年々少なくなっています。しかし、戦争の悲劇を風化させてはいけません。今月は、蕨を襲った空襲や当時の蕨を知る人へのインタビューを通して、平和の尊さについて考えてみたいと思います。



軍

需工場が複数あった蕨は、昭和20年4月から5月にかけて、3回にわたって空襲に見舞われました。1回目は、4月12日の正午頃。錦町5・6丁目付近からさいたま市の辻にかけて16個の1ト爆弾が投下されたと言われています。2回目は、13日の夜から14日の朝にかけて、爆弾と焼夷弾の攻撃により、南町2・3丁目付近から現在の北小学校までの約1キロ、幅200〜300メートルの広範囲が

火の海となりました。3回目は、5月25日の午後10時頃。錦町3・6丁目の民家3戸が焼失しました。これら3度の空襲による被害は死者約50人、罹災した家屋は400戸に上り、県内では熊谷に次いで2番目の被害となりました。同年8月15日に戦争が終結してから今年で81年が経ちました。この間、日本では平和な日々が続いていますが、現在も世界各地では戦争や紛争が起きています。戦争を直接

知る世代が少なくなつた今、戦争の悲惨さを語り継ぎ、風化させないことが必要です。左ページでは、昭和9年に蕨で生まれ、戦中・戦後の蕨で少年時代を過ごした野崎隆司さんのインタビューを紹介いたします。私たち一人ひとりが、過去に我が国で起きた戦争のことを知り、蕨市平和都市宣言(上囲み)に示した平和を願う思いを新たにしていきましょう。

野崎 隆司さん（92歳・中央3丁目）

「子どもの頃の話をするのも久しぶりですが、話していると、当時のことをいろいろ思い出します」と話す野崎さん。戦中・戦後の蕨のことを聞きました。

戦争の影響で食料不足に

私が生まれた頃、現在の蕨駅は蕨停車場、駅前通りは停車場通りと呼ばれていました。我が家はその停車場通りで綿織物の買い継ぎ商をしていました。3歳の頃に日中戦争が始まりましたが、この頃、私にとって戦争はまだ、遠い異国の話でした。その後、中山道近くの幼稚園に1年通った後、昭和15年に蕨第一尋常高等小学校、現在の北小学校に入學。翌年に太平洋戦争が開戦すると、戦争が日々の暮らしに影を落とし始めました。



▲蕨駅西口の様子（昭和27年）



当初、日本軍は優勢でしたが、戦況が悪化すると日本全体が深刻な食料不足に。学校では麦踏みやイナゴ捕り、芋畑の手伝いもしました。芋と言っても私たちの口に入るのは、葉と茎をつなぐ葉柄のつくだけでした。また、特に甘い物は手に入りにくく、停車場の売店では柿の皮を干した物まで売っていて、私もこづかいをはいたいたものです。

東京が燃えた大空襲の夜

戦争の末期になると、蕨でも空襲があり、焼夷弾による火災や爆弾によって生き埋め

になった人を目撃しました。いちばん記憶に残っているのは、東京大空襲の夜のことです。南の空が一面オレンジ色に染まった様子は、見たこともない恐ろしい光景でした。

終戦の日のことも覚えています。その頃、食料の足しに、よく友人と近くの川へ出かけ、フナやナマズを捕りましたが、その日はシジミ採りに行って帰宅すると、ラジオからちやうど玉音放送が流れていました。日本が負けたと聞き、私は訳も分からぬまま、ボール紙でできたトランクに身の回りの品を詰め、敵から逃げる準備をしたのを覚えています。

これから平和な時代を

戦後、空襲の恐怖はなくなったものの、たいへんな物不足で、駅前では闇市がにぎわいを見せていました。ようやく世の中が落ち着いてきたのは高校生の頃。私は美術教師を目指すことを

決め、大学院を修了した後、ちやうど新設された蕨高校の美術教師になることができました。その間も教職と並行して、彫刻をはじめとする制作活動にも取り組み、90歳を超えた現在も、自宅のアトリエで作品を作り続けています。

戦争というものは戦地だけで起きるものではなく、国と国が全てを壊し合うような愚かな行いです。まだ少年だった私も、戦争によって、物も食料も無い苦しい時代を過ごしました。今、日本は平和ですが、明治以降、これほど長く平和が続いた時代はありません。若い皆さんには、この貴重な時代に生まれた幸せに感謝し、これから平和な時代を守ってほしいと願います。



▶鉄かぶとを被り兵隊ごっこをする野崎さん（6歳の頃）

1

市民会館コンクレレホール リニューアルオープン



今月の特集・わらび市政スポットでは、市が進めている取組の中から、3つの事業についてお伝えします。



point

リニューアルのポイント

客席の新調とバリアフリー化



座席の幅が広がり、ゆったりと座れるように。一部の座席は手すりが上がり、車椅子の乗り降りがしやすくなっています。また、階段のある通路側の椅子には手掛けが設置されています。

舞台床・舞台照明機材の新調



舞台床がひのきの床材で新調され、きれいになりました。また、照明機材を新たにし、LED化しました。カラー照明も4色から6色になり、より多彩な演出ができるようになりました。

新たなグランドピアノの導入



スタインウェイ&サンズ社のフラッグシップモデル「D-274」を導入。全長274センチのグランドピアノで、音質と耐久性が高く評価され、世界のコンサートホールに数多く採用されています。

コンサートや映画上映会などの催し、成年式やお年寄りを敬う会などの式典、部活動や文化活動団体の発表など、さまざまな場面で市民の皆さんと思い出をともししてきた市民会館。1月から行われていたコンクレレホールの改修が完了し、今月からリニューアルオープンします。

命化を図りました(詳細左枠)。また、開館当初から使用してきたピアノを更新し、世界のコンサートホールでも採用されるスタインウェイ&サンズのピアノを導入しました。2日にチェンバーオーケストラ蔵によるこけら落としが行われ、装いを新たに歩み始める市民会館。これからは蔵の芸術・文化の拠点として、地域に彩りを届けていきます。

問い合わせ 庶務課(☎433・7742)

声

きれいなホールが楽しみ



蔵フィルハーモニックウインズ
せきぐち ひより
関口 姫依 さん
中央6丁目

22日に定期演奏会があるので、新しいホールを見渡しながら演奏するのが楽しみです。舞台の床が新しいと響きも良くなりますし、新しいカラー照明も使って、お客さんを楽しませたいです。

2

全市民に一人7000円分の暮らし応援券 今月から織りなすクーポンの利用開始

蔵

しい物価高騰が続くなか、市民の皆さんの家計の応援のため、先月、全ての市民に一人7000円分の「織りなすクーポン」をお届けしました（詳細下枠）。利用期間は10月31日までで、取扱店にはポスターやステッカー、のぼりが掲出されています。なお、織りなすクーポン1000円分が抽選で当たたる蔵市公式LINEとのコラボキヤ

ンペーンも実施中。クーポン同封のちらしより友だち登録の上、お申し込みください。皆さんがクーポンを利用することで市内経済の活性化にもつながります。ぜひ、この機会に買い物や食事などを楽しんでみてはいかがでしょうか。

問い合わせ／クーポン＝商工観光課（☎433・7750）
蔵市公式LINE＝秘書広報課（☎433・7703）

▶取扱店にはのぼりやポスターが掲出

声



みやもと こうすけ
宮本 皓介 さん
塚越2丁目

新しいお店を発見したい

子育てをしていると、生活必需品の値上がりを感じるの、織りなすクーポンは助かりますね。取扱店の一覧を見て、行ったことのない飲食店に家族で食事に行ってみようと思います。

織りなすクーポン事業の概要

対象＝4月1日時点で蔵市に住民登録がある人
配布＝先月22日までに配布済み
利用期間＝10月31日まで
支給額＝一人当たり7,000円分（共通クーポン500円分×10枚、専用クーポン500円分×4枚）

利用できる店舗／共通クーポン＝全取扱店舗（広報紙折り込みのちらしまたは下記二次元コード参照）
専用クーポン＝大型店を除く取扱店舗
※取扱店舗は随時募集中。



※不在等によりクーポンをまだ受け取っていない対象者には6日以降に商工観光課の窓口でお渡しします。必ず事前に同課（☎433・7750）にご連絡の上、お越しください。

3

警備員による蔵駅周辺の 防犯パトロール開始

防

犯対策として、町会の皆さんや警察によるパトロールに加え、市では街なか防犯カメラの増設等を実施。こうした取組の効果もあり、刑法犯認知件数はピークだった平成15年の3046件から、昨年は686件に減りました。昨年7月には、蔵の玄関口である蔵駅周辺の犯罪抑止のため、帰宅時間帯に青色防犯パトロールを開始（詳細左下

▶防犯パトロールの様子（先月16日）



青色防犯パトロール



犯罪者が犯罪を起こしにくい環境を作るため、昨年7月から、青色回転灯を装備したパトロールカーを使用し、帰宅時間帯を中心に蔵駅東西口周辺を巡回警備しています。

枠）。更に先月からは、警備員による駅周辺の徒歩パトロールも始まりました。地域の監視の目を増やすとともに、路上でのたむろや喫煙等の迷惑行為への声かけを行い、駅周辺の環境整備を行っています。市では今後も地域の皆さんや警察と連携し、安全安心のまちづくりを進めていきます。

問い合わせ＝安全安心課
（☎430・7834）

夏の風物詩楽しむお祭り

6月28日、蕨駅東口一番街で「あさがお & ほおずき市」が開催されました。涼しげなアサガオと、ほんのり赤く色づいたホオズキが、訪れた人たちの目を楽しませました。そのほか、縁日コーナーや特設ステージなどが設けられ、延べ3万人の来場者は、夏の風情あふれるお祭りを満喫していました。



まちの話題

ここでは6月下旬から7月下旬までの話題を紹介します
ビデオマークがついている話題はCATVで放映します



鉄道を通じて深まる交流

先月11日と12日、くるるを主会場に「わらてつまつり2026」が開催されました。毎年大人気のミニ新幹線試乗会の他、こども駅長制服撮影会やNゲージ展示運転会など、子どもから大人まで楽しめる企画が盛りだくさん。会場には延べ1万6,000人が訪れ、鉄道を通じて地域の交流を深めていました。

クイズで学ぶ防災の知識

地域の自主防災リーダーの育成のための「防災大学校」と市内中学生の地域防災支援事業WSSの「防災講座」が先月17日、市民体育館で合同開催されました。参加した122人は、蕨防災士会の皆さんが用意したクイズを通して災害用伝言ダイヤルの使い方などの災害・防災の知識を楽しく学びました。



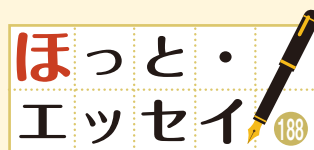
「ハローわらび」8月の番組表

市からのお知らせ・地域の話題などをお送りします

放送時間は、毎日午前9時・正午・午後3時・6時・9時からそれぞれ45分間です。

	31(金)～8/6(木)	7(金)～13(木)	14(金)～20(木)	21(金)～27(木)	28(金)～9/3(木)
00	タウンタウン アイマスク・車いす体験 in 中東小	市政ガイド わらび市政ほっとNews	タウンタウンワイド わらび防災大学校	市政ガイド わらび市政ほっとNews	タウンタウン サンキャッチャー制作
05	わらてつまつり2026	タウンタウンワイド ちびっこなつまつり	空気砲をつくろう！	タウンタウン 認知症キッズサポーター 養成講座	プランターファーム講習会
10	蕨市政なう！	呼吸ストレッチヨガ	チョークアートを描こう	蕨市政なう！	平和特集
15	市民の暮らしを守り 蕨の更なる飛躍へ 市長マニフェスト	子ども作曲ワーク2026	マジック教室&ショー	更に充実！ 市立病院の医療サービス	平和の紙芝居・ミニコン サート&すいとん試食会 戦争を語る
20	探れたてスポット 地域の話題が盛りだくさん	音楽が響き渡るまち コンクレホールリニューアル こけら落とし記念公演	市長の“ほっと訪問” 中古衣料にもう一度命を 株式会社トシマ(北町4丁目)	特集・ウィークリープラス 第74回機まつり	探れたてスポット 地域の話題が盛りだくさん
30	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報

「ハローわらび」DVD／放送終了後から貸し出します 無料 詳細・貸し出し場所＝秘書広報課 ☎433・7703



蕨の芸術・文化の拠点
市民会館ホールが装い新たに

市長 頼高 英雄

蕨市民会館は、昭和49年に誕生し、以来半世紀にわたり、蕨の芸術・文化の拠点として、多くの市民の皆さんに親しまれてきました。コロナ禍で中止されていたイベントが再開され、ホールに演奏が響き渡った時は、感動とともに、芸術・文化が私たちの人生に与える力を改めて実感しました。そんな市民会館大ホールが、この度リニューアルオープンします。客席を一新し、より

市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は6日です。9月は3日です。時間は午後1時～5時を予定しています。

ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へご連絡を。

ゆったり鑑賞できる空間となるとともに、舞台床や舞台照明も新調しています。また、これを機に、音楽のまち・蕨にふさわしく、世界の名だたる音楽ホールで採用されているスタインウェイのグランドピアノを導入しました。いよいよ今月2日、県内初のプロオーケストラであるチエンバーオーケストラ蕨によるこけら落とし公演が行われますが、今月末から始まる蕨市民音楽祭をはじめ、新たな装いとなったホールに、皆さん、ぜひお越しください。ホールは、その街の市民とともに育つと言われますが、皆さんと響き合いながら、豊かな蕨の芸術・文化を更に発展させていきたいと思えます。



自由な発想広がる曲作り

先月17日と18日、蕨市PR大使で左手のピアニスト・智内威雄さんと作曲家・朴守賢さんによる「子ども作曲ワーク」が、中央公民館で開催されました。参加した小・中学生25人は、アプリで作った曲を五線譜に書き起こし、その場で智内さんに弾いてもらいながら自分だけの曲を作り上げました。

ともや 倫矢ちゃん（4歳5か月）

田中 崇裕さん
彩佳さんの 長男
南町1丁目



わが家のアイドル

「体を動かして遊ぶのが大好きな倫矢。いつの間にか自転車に補助輪なしで乗っていて、日々の成長の早さに驚かされます。」と父親の崇裕さん。「私が家事をしていて手が離せないときに弟の真絢のめんどろを見てくれて、お兄ちゃんらしくなったと成長を感じます。将来は、困っている人に手を差し伸べられる、思いやりのある人になってほしいですね」と母親の彩佳さん。



科学の面白さを伝える教室

先月21日、南町児童館でサイエンス教室「空気砲をつくろう！」が開催されました。参加した小学生13人は、サイエンスインストラクターによる科学実験で学びを深めた後、ペットボトルの空気砲作りに挑戦。楽しみながら科学に親しむことができました。



「ぜひ間近で花火を見に来てください」と伊東さん。

輝いています

ひと

南まつり実行委員

伊東 達雄 さん

花火がつなぐ地域の輪

南

小学校の校庭から夜空へ打ち上がる大輪の花火。地域の交流の場として親しまれてきた南まつりを長年にわたり支えてきたのは、南まつり実行委員の伊東達雄さん（56歳・南町2丁目）です。子ども会支部長やPTA会長として地域活動に携わってきた伊東さん。9年前に南まつりの実行委員長を引き受けた矢先、コロナ禍によって開催できなくなってしまうも縮小し、地域のつながりが薄れていくことに危機感を抱いた伊東さんは、「南まつりをまちと人をつなぐ掛け橋にしたい」と再開を決意します。コロナ禍が明け、5年ぶり

に開催するに当たっては、昔の資料を調べながら必要な物をかき集め、代替わりした団体にはあらためて協力をお願いするなど、一から祭りをつくり直す必要がありました。そんな伊東さんの熱に押され、町会やPTA、小学校、消防団など、たくさんの方の協力が集まり、南小学校の校庭に再び花火が打ち上がりました。ドーンと音が鳴る度に歓声が上がると音が鳴る度に歓声が見上げる子どもたち。その瞳はいつそう輝いて見えました。29日に開催する今年の南まつりでは、これからの地域を担う10代や20代の人たちが運営に加わり、来場者が楽しめる出し物を企画しています。若い世代が活躍する姿を多くの人に届けたいと考えた伊東さんは、過去最多の花火の打ち上げなど、祭りの充実に向けた計画をSDGs推進事業に提案。市との協働で地域の未来を照らすこの祭りを作りに上げることが決まりました。「蔵をいいまちだと思う人が増えてほしい」と伊東さん。今は新たな実行委員長を支えながら、準備に奔走中。地域の輪は、夜空の花火のようにこれから広がっていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.123—



晩斎筆「蛇を捕まえる蛙」
多色摺木版画 色紙判錦絵

いつもは蛇に吞まれてしまう蛙たちが、蛇を枝に縛りつけ、ここぞとばかりに騒いでいます。蛙たちは蛇の尻尾を引っ張ったり、鼻をくすぐったりと、やりたい放題です。晩斎は同じ構図の肉筆作品を、明治6年（1873）に来日し、明治13年（1880）に帰国した英国人外科医のウィリアム・アンダーソン（1842～1900）のために描きました。なお、その作品はアンダーソンが収集した膨大な日本美術コレクションとともに、大英博物館に現在も所蔵されています。

河鍋晩斎記念美術館
開催中(24日まで)

企画展「晩斎・晩翠 いきものを描く」展
同時開催 特別展「第40回かえる展」

開 館＝午前10時～午後4時
ところ＝南町4-36-4
休 館＝火・木曜日（祝日除く）、毎月26日～末日
入館料＝一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※学生は学生証、65歳以上は年齢の分かる物
をご提示ください。
詳 細＝同館（☎441・9780）



展示会の詳しい
内容は美術館の
ホームページを
ご覧ください



yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年（1831）
～明治22年（1889）